



IMAZINE No.1

発行責任者：BHEジェンダー支援チーム
学生（ピア）スタッフ

IMAZINEって!?

突然ですがBHEジェンダー支援チームって知っていますか??
 近年よく聞くようになった「ジェンダー」「セクシュアリティ」に関する話題。ひょっとしたらあなたもそれらに関して何かしら個人だ経験があったかもしれません。
 「BHE」はヒューマンエンパワーメント推進局（Bureau of Human Empowerment）という筑波大学の組織で、ジェンダー支援チームは、学内で「性」に関する悩みを持った方達に寄り添う、また「性」に関する知識理解を広めることを目指した取り組みをしているチームです。今はBHE教職員の方達と3人の学生（ピア）スタッフで活動しており、主な活動としては月に数回開室している、「性」の違いを尊重しながら誰もが安心して話せる場所としてのセーフスペース「Kite Kite」を開室したり、図書館での展示、イベントへの出展をしたりしています。
 そんな私たちジェンダー支援チームの学生スタッフで広報誌「IMAZINE」を発行することになりました。より筑波大学の学生の声を反映するような活動ができないかということも考え、誰もが手に取りやすい形でジェンダー・セクシュアリティに関する知識、そしてジェンダー支援チームの取り組みを広めることのできる広報誌製作をすることに決めました！定期的に発行する予定で、筑波大学内外の「性」に関する情報や、ジェンダー支援チームのイベント情報、さまざまな「性」に関する話題を含めた広報誌にしていきます！
 「IMAZINE」の由来としては、筑波大学のスローガン「IMAGINE THE FUTURE」のIMAGINE（想像する、思い浮かべる）と、誰もが自由に発行できる小冊誌「ZINE」をかけてこの名前になりました。私たちがひとりひとりが自分らしくいるために、ジェンダー支援チームも広報誌を通して精一杯頑張りたいと思います！ぜひご一読ください！

BHEジェンダー支援チームでの一年間を終えて～保井啓志先生～

2023年2月から2024年3月までBHE助教を務められ現在は同志社大学で研究員をされている保井啓志先生に、BHEでの1年間を振り返るインタビューを行いました。

保井先生は、イスラエル/パレスチナ地域を対象にフェミニズム・クィア理論、批判的動物研究を専門とされ、昨年3月に博士論文「現代イスラエルにおける権利をめぐる政治とナショナリズム：性的少数者の権利と動物の権利の比較分析」を提出されています。昨年度は、ジェンダー支援チームでの通常業務のほかピアスタッフと一緒に企画の打ち合わせや運営に取り組みされていました。気さくで話しやすい方で今回のインタビューでも場を和ませていました。

以下では保井先生のBHE責任後の取り組みについて、筑波大学のセーフスペース「KiteKite」の実態を中心に紹介したいと思います。

保井先生とBHEとの出会いは偶然だったそうです。博士後期課程在籍時に今後の進路について調べていたところ、筑波大学がBHEを新設しジェンダー、セクシュアリティ、LGBTQを専門とする研究者を公募しているのを見つけたそうです。たまたま見かけた公募が着任のきっかけで、「ジェンダー研究を対象とする公募が本当に少ない中で、筑波大学はLGBTQに関する取り組みも含めた公募があった」と採用の嬉しいさを感じていました。また採用枠の少なだけではなく「日本では小中高まででジェンダーを教わる機会がほとんどないが、性に関することは日常生活に関わることなのでジェンダー教育はとて重要」だとお伝えいただき、研究と教育の両面から「性」の問題に取り組みようとしていた姿勢がうかがえました。

保井先生が責任後にやりたいと思っていた取り組みの一つにセーフスペースの開室があります。自身のジェンダー、セクシュアリティに関係なくすべての人が安心して安全に過ごすことのできる筑波大学のセーフスペース「KiteKite」は、保井先生にもご協力を仰ぎながら昨年実現しました。学生時代にLGBTQのピアサポートのグループに所属していた経験から性的マイノリティの基礎づくりの必要性を感じていたという保井先生によると、フェミニズム、クィア研究の清水晶子さんによる「大学は（大学）を守れるのか——大学におけるセクシュアル・マイノリティ」（2016年『世界』888巻岩波書店所収）という文章を読んだことが影響しているそうです。自らのジェンダー、セクシュアリティのあり方が尊重されず大学に来られなくなってしまう学生がいることについて、「全ての構成員が安心して学べる環境を大学側が提供できないことは重大な問題で、この問題に対して無責任ではないといけない」という考えを深め、その意義を感じられたそうです。海外、特にアメリカの大学ではすでに設置されているところも多く、日本でも東京を中心にセーフスペースが運営されている大学があります。こうした現状を踏まえ筑波大学でも取り組みを開始しようとして、ピアスタッフや保井先生を含めたジェンダー支援チームの教職員とも協議を重ね、昨年開室することができました。

「LGBTQの人は孤立しやすい。オキヤーと生まれたら多くの場合両親がヘテロセクシュアルでシジェンダーの誕生は始まるから、基本的にはひとりぼっちになる。それから思春期を経て自分探しのグレートジャーニーが始まる。それはほのマイノリティとはやや違うところの特別なところでもある。だからこそ支援する・支えられる関係ではない対等な学生同士の関係性や参加・協働が重要で、その意味で学生ができることは多い」と学生たちへのメッセージを語っていました。「学生からさまざまな提案をこれからどんどん聞いてほしい」というお言葉を大事に、ピアスタッフとしての活動に励みたいと思えるインタビューとなりました。保井先生、1年間ありがとうございました！



やすひのりし
保井啓志先生
(2023/03/27撮影)

東京レインボープライド2024で同性婚実現に向けてのアクション

結婚の平等（同性婚の法制化）実現を目指す公益社団法人Marriage For All Japan - 「結婚の自由をすべての人に」は、東京レインボープライド2024において様々なコラボ企画を行い、同性婚に関するシンポジウム企画、パレード走、同性婚へ賛同する選挙候補者を可視化するARカメラ体験スペースの設置、国会議員あてに同性婚の法制化を求めるメッセージをつづって届けるコーナーを設け、約330枚の手紙を集めた。パレードには「結婚の自由をすべての人に」訴訟を戦う控訴人・弁護団や、全国の支援者・当事者、賛同企業担当者が大勢参加し、訴訟で唯一「合憲」とされた関西訴訟の控訴人・川田有希さんと田中昭全さんは、「社会の幸福度を上げるために存在するのが政治のはずなのに」（同性婚を認めると）社会が変わってしまう」という国家首長の発言自体がおかしい。」（発言の一部）と訴えた。

<https://prt-times.jp/main/html/rd/p/000000056.000054117.html> PRTIMES 2024年5月2日 10時00分 引用

おすすめの本！

ALLYって知ってる？

自分が、同性愛者やトランスジェンダーを中心とする性的マイノリティ（LOGBTQ+コミュニティ）当事者である、非当事者であることに関わらず、LOGBTQ+の人権や生き方を尊重し、かれらに寄り添い理解に努める態度、活動を支持し、支援し、不正を正すための行動志向を有する者のことだ。

T-ACT つくばアクションプロジェクトでは、「LOGBTQ+ = ALLIES Salon」という企画を行っており、LOGBTQ+の当事者や、非当事者Allyが一緒にあって語り感を共有したり、勉強しながら、シティシップを発揮するアクションの機会を企画・企画・実行する場を築くことが目的であるそうです。

13歳から知っておきたいLOGBTQ+ (アシュリー・マーデル)

タイトルの通り、13歳、つまりLOGBTQ+のことについて全く知らない人でも理解しやすく分かりやすくLOGBTQ+について書かれた本です！社会のなかで「自分は何者なのか」という問いに向き合い続ける約40名のLOGBTQ+のリアルな声が描かれていて、様々な経験が記されています。人間は多様であり、ラベルはあくまでも自分や相手を理解し自分を伝えるための手段であって、ラベルに当てはまっていないことを気にしなくてもよい、自分らしくいていいんだ、ということを教えてくれる一冊です。



HANASO!

「性」についてのモヤモヤ、ジェンダー・セクシュアリティについての知らない知識、ジェンダー支援チームについて聞いてみたいこと、ありませんか？

このコーナーは読者の皆さんからさまざまな「性」やジェンダー支援チームに関する質問やお悩みを募集して私たちがそれにお答えするという企画です！なかなか人には聞けない…なんてことも私たちが責任をもってお答えするので安心ください！

下のグーグルフォームのQRコードを読み込んで質問やお悩みを書いて送ってください！たくさんの応募お待ちしています！

※送っていただいた質問やお悩みがBMAZINEに掲載させていただきます。
※応募数が多かった場合すべてのものを載せることが難しい場合があります。ご了承ください。



Information

BtHジェンダー支援チームでは、3月の国際女性デーや4月の東京レインボープライド、6月のPride Monthといった季節毎のイベントの企画・運営、またセーフスペース KiteKiteや映画鑑賞会の企画と運営、そして豊後県へのブース出展というように、LOGBTQ+のコミュニティ形成やジェンダー・セクシュアリティ関連イベントに携わっています。そんな私たちの今後の活動予定をまともしました。気になるという方はぜひ遊びに来てください！

- 6/3(月)~6/21(金) Pride at Tsukuba
〜ぶちライブラリー〜
場所：中央図書館
- 6/5(水)、6/26(水) セーフスペース
kite kite
場所：人間系学系A棟110
時間：11:30~13:30

Official RP



他にも気になるという方はぜひこのQRコードからジェンダー支援チームのオフィシャルメールにご覧になってください！





IMAZINE No.1

Published by: the BHE Gender Support Team

What is IMAZINE !?

Have you heard about the BHE Gender Support Team at the University of Tsukuba? In recent years, there has been increasing awareness around SOGI (sexual orientations and gender identities), which are aspects of human identity that many can relate to, though some may find themselves confused or struggling.

BHE stands for the Bureau of Human Empowerment, and the Gender Support Team aims to assist individuals on campus facing challenges related to SOGI, while also promoting knowledge and understanding of these issues. The major focus of the Gender Support Team includes organizing the "kite kite" safer space, where female and sexual minority students can safely engage in discussions several times a month, as well as hosting exhibitions in the library and participating in events like the Tokyo Rainbow Parade.

The IMAZINE is a newsletter published by the student staff of the Gender Support Team. This newsletter is designed to amplify the voices of University of Tsukuba students, covering topics related to sexuality both within and outside the university, updates on Gender Support Team events, and various gender and sexuality-related subjects.

The name "IMAZINE" is inspired by the University of Tsukuba's slogan, "IMAGINE THE FUTURE." Through the magazine, the Gender Support Team endeavors to empower everyone to embrace their identity proudly and unapologetically. We hope you find it empowering too!

After a year in the BHE Gender Support Team - Dr. Hiroshi Yasui

We interviewed Professor Hiroshi Yasui, who served as an Assistant Professor at BHE from February 2023 to March 2024 and is currently a Research Fellow at Doshisha University, to reflect on his year at BHE. Dr. Yasui specializes in feminist queer theory and critical animal studies in Israel/Palestine. He submitted his PhD thesis, titled 'Politics and Nationalism over Rights in Contemporary Israel: a comparative analysis of Sexual Minority Rights and Animal Rights,' in March of last year. In addition to his regular duties in the Gender Support Team, last year he collaborated with peer staff on planning meetings and administration. Dr. Yasui is approachable and affable, making the interview a pleasant experience. In the following, we'll highlight the interview's focus on the implementation of the University of Tsukuba's Safer Space, 'Kitekite,' and Dr. Yasui's initiatives since joining BHE.

Dr. Yasui's introduction to BHE was serendipitous. While researching his future career path during his doctoral studies, he was pleasantly surprised to discover that the University of Tsukuba had established a department to support SOGI diversity and was recruiting researchers specializing in sexuality studies. He expressed his joy at being employed there. He also emphasized the importance of gender education in Japan, noting the scarcity of opportunities for such education in elementary, junior high, and high schools. Dr. Yasui's efforts to address gender issues span both research and education domains.

After Professor Yasui assumed his position, one of the things he wanted to do was to establish a Safer Space. With the collaboration of Professor Yasui, Tsukuba University's Safer Space, "KiteKite," was realized last year. Drawing from his experience of belonging to a LGBTQ peer support group during his student days, he felt the necessity of creating a space for sexual minorities. He also felt concerned about students who couldn't come to university because their gender and sexuality weren't respected, thinking, "The university should not be irresponsible about providing an environment where all members can study comfortably." During that time, he found significance in a piece by Akiko Shimizu on feminism and queer studies titled "Can Universities Protect 'the University'? - Sexual Minorities in Universities" (published in 2016 in Sekai, volume 888, by Iwanami Shoten), realizing, "This is a problem that universities must address." Many universities in the United States and some in Japan, particularly in Tokyo, already have Safer Spaces. Based on this context, discussions were held among peer staff, including Dr. Yasui, and other faculty members to initiate efforts at Tsukuba University. Eventually, the Safer Space was established last year.

Dr. Yasui mentioned, "LGBTQ individuals often feel isolated. When they are born 'different,' they usually grow up in families where both parents are heterosexual and cisgender, so they often end up feeling alone. Then, during adolescence, their great journey of self-discovery begins, which is not as common for other minorities. Therefore, it is important to have relationships and collaborations among students that are not about supporting or being supported but about equality." He conveyed this message to the students. Although he moved away this fiscal year, he emphasized the importance of students continuing to make various proposals. This interview serves as encouragement for peer staff to continue their activities.

Thank you for the past year!



Dr. Hiroshi Yasui
(Date of taken
2023/03/27)

Actions toward the realization of same-sex marriage at Tokyo Rainbow Pride 2024.

The public interest corporation Marriage For All Japan, aiming for marriage equality (legalization of same-sex marriage) under the motto 'Marriage Freedom for Everyone,' conducted various collaborative projects at Tokyo Rainbow Pride 2024. These included symposiums on same-sex marriage, participation in the parade, installation of an AR camera experience space to visualize candidates supporting same-sex marriage, and a corner for delivering messages to members of parliament urging the legalization of same-sex marriage, where approximately 330 letters were collected. The parade saw the participation of appellants and legal teams fighting for 'Marriage Freedom for Everyone,' as well as supporters and stakeholders from across the nation. Yuki Kawada and Akiyoshi Tanaka, the appellants of the Kansai lawsuit, which was the only case to be deemed 'constitutional' in the lawsuit, stated, 'It's strange that the statement from the national leader is that 'society will turn for the worse' with the recognition of same-sex marriage, even though the purpose of politics should be to increase the happiness of society.' (excerpt from the statement).

[Citation] <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000056.000054117.html> PRTIMES 2024/05/02 10:00

Book
Recommendation!

What does "Ally" mean?

An ally is someone who, regardless of whether they are LGBTQ+ individuals or not, respects the rights and way of life of sexual minorities (the LGBTQ+ community), and endeavors to understand and support them, while supporting activities and actions aimed at rectifying injustices.

The T-ACT Tsukuba Action Project conducts a program called 'LGBTQ+ = ALLIES Salon,' where LGBTQ+ individuals and non-LGBTQ+ allies come together to share concerns, study, and plan and execute actions that demonstrate citizenship. The goal is to create a space where both LGBTQ+ individuals and allies can work together to address issues and take action.



The ABCs of LGBTQ+ [Ashley Mardell]

Title as it is, it's a book about LGBTQ+ in an easy-to-understand manner, even for someone who is completely unfamiliar with LGBTQ+ topics at the age of 13! It portrays the real voices of about 40 LGBTQ+ individuals who continue to confront the question of "who am I?" in society, depicting various experiences. It teaches us that humans are diverse, and labels are merely means to understand oneself and others and to convey oneself. It's okay not to fit into labels, and it's okay to be oneself.

HANASO!



Do you have any questions or concerns about gender and sexuality? Want to know more about the related knowledge? Or anything you'd like to ask the gender support team? Scan the QR code next to this passage and help us collect questions and concerns from readers about various aspects of gender and sexuality and the Gender Support Team, and we answer them responsibly. So, please feel free to ask us anything you might not feel comfortable asking others!

feel comfortable asking others!

*The questions and concerns you submit will be published in IMAGINE.
*Please understand that if there are many submissions, it may be difficult to include all of them.



Information

The BHE Gender Support Team is involved in planning and organizing seasonal events such as International Women's Day in March, Tokyo Rainbow Pride in April, and Pride Month in June, as well as organizing and operating the SaferSpace KiteKite and movie screenings. We also participate in booth exhibitions at the Souhou Festival, all aimed at building LGBTQ+ communities and organizing gender and sexuality-related events. We've compiled our upcoming activity schedule for those who are interested. Please feel free to join us!

6/3(Mon)~6/21(Fri)
Pride at Tsukuba ~Petit Library~
Venue : Central Library

6/5(Wed), 6/26(Wed)
Safer Space: Kitekite
Venue : the human science building A 110
Time : 11:30~13:30

If you are interested in BHE Gender Support Team, please use the QR code on the right. This is the Official website! Please take a look!



Official BP
BHE
ヒューマンサイエンス研究所
Bureau of Human Empowerment



IMAZINE No.1

出版：人类赋权推进局（BHE）性别支援团队

IMAZINE是什么？

不知道大家有没有听说过筑波大学的人类赋权推进局，性别支援团队？近些年来，我们经常听到关于性倾向与性别表达（SOGI, sexual orientation and gender identities）的话题和讨论。相关议题的认知度也越来越高。性与性别是我们每一个人都与之息息相关的重要话题，我们每个人都在经历着性与性别，也一定有人因为性与性别而烦恼，甚至挣扎。

BHE是Bureau of Human Empowerment的缩写，其中性别支援团队的目标是给予那些校园中被性倾向与性别表达问题困扰的同学，老师们。除此之外，性别支援团队也立志于传播相关知识，深化对相关议题的理解。性别支援团队的工作重心包括女性与性少数学生的安全控件“Kitekite”的日常运营。在这个安全空间中，大家可以安全地探讨性与性别相关议题，分享经验。同时，性别支援团队也积极在筑波大学以及校外举办活动，如六月份的图书馆展览和东京骄傲节的参展。

IMAZINE就是由性别支援团队出版的通讯杂志。我们创建IMAZINE是为了能够为筑波大学的学生提供更多发声渠道，向校内外传播更多与性与性别相关的知识和情报，同时也积极公布性别支援团队的活动日历，希望更多的人能够来支持参加我们的活动。

我们的名字“IMAZINE”是受到了筑波大学的口号“Imagine the Future（想象未来）”的启发。通过这份杂志，性别支援团队希望能够为每一位大学成员赋权，让我们都可以骄傲的，毫不愧疚地做我们自己。希望我们能够给大家力量。

在BHE性别支援团队的一年-保井启志教授

我们采访了保井启志教授。保井老师于2023年2月至2024年3月期间在BHE担任助理教授。现任同志社大学研究员。我们请保井老师为我们分享他在BHE的工作感受。保井老师的专业领域是女性主义和酷儿理论，以及以色列/巴勒斯坦语境下的批判性动物研究。他于2023年3月提交了自己的博士论文。论文题目是《围绕现代以色列权利的政治和国族主义：性少数权利和动物权利》。保井老师除了在性别支援团队中的日常工作，也非常积极主动地参与了与学生职员的政策会议以及日常管理工作。保井老师非常的亲善友好，我们的采访非常顺利，愉快。接下来，我们一起来看看保井老师是如何在加入BHE之后推进安全空间Kitekite的实现吧！

保井老师和BHE的相遇是一个偶然。在博士课程接近尾声，寻找自己将来就职方向的时候，他惊喜地发现筑波大学竟然设置了专门支援和推进性与性别多样性的部门，并且在招聘性研究专业的教职员。他表示非常开心能被BHE录取。他也强调了性教育在日本的重要程度，指出日本的小学，初中和高中都鲜有专业的性教育项目。也因此，保井老师在他的研究和教育工作中同时推进着性与性别议题。

保井老师正式在BHE任职之后的第一项目标就是建立一个安全空间。在保井老师的推动下，筑波大学的安全空间“Kitekite”在去年正式成立。基于他自身在大学期间参与运营性少数社团的经验，他认为这样的安全空间在大学里面是必需的。他也表达了对因为自己的性倾向与性别表达不被尊重而无法来大学校园上课或参与活动的学生们的担忧。“大学必须要负责任地为所有学生提供一个可以安全，舒适地学习和讨论的环境。”在他的大学时代，他在女性主义与酷儿理论研究者清水晶子老师的一篇文章《大学要如何保护好“大学”（的形象）？：大学中的性少数们》（2016年出版于《世界》第888卷，岩波书店）的文章中得到了启发。他认识到“这是一个所有大学都必须面对的问题。”很多美国的大学以及一部分日本的大学，尤其是东京的大学都已经建立了他们自己的安全空间。正是在这样的语境下，在与学生职员，以及其他部门的教职员的多次讨论后，筑波大学的安全空间终于得以实现。

保井老师提到：“性少数者经常会感觉到一种孤立感。当ta们生下来就与别人“不同”，即便在自己的家里，ta们也大多有一对异性恋和顺性别的双亲，在这样的环境里，他们自然也会感到被孤立。到了青春期，ta们开始了伟大的探索自我的旅程。这个旅程也和别的少数群体不同。因此，我们需要的不仅仅是帮助与被帮助，更应该是平等和公正的关系。”他希望能将这样的信息传达给学生。虽然他今年已经离开了BHE，但是他也号召更多的学生继续参与进安全空间的运营。希望这则访谈可以激励接下来的学生和学生职员们更加积极地参与到Kitekite的运营中来。

保井老师，谢谢您！



保井启志 (2023/03/27)

2024东京骄傲节中的同性婚倡导行动

旨在实现婚姻平等（同性婚合法化）的公益社团“Marriage For ALL Japan”，以“婚姻自由为所有人”为宗旨，在2024东京彩虹骄傲节进行了多样的宣导活动。其中包括关于同性婚姻的座谈会、游行，也设置了增强现实相机体验空间来可视化支持同性婚姻的候选人。并设置了一个角落向国会议员传递呼吁同性婚姻合法化的信息。活动总共收集了大约330封信件。游行中，除了来自全国各地的支持者和利益相关者外，还有提倡“Marriage For ALL”的诉讼当事人和法律团队参加。关西诉讼的原告川田有希和田中昭全表示：“奇怪的是，国家领导人的声明是，承认同性婚姻会使社会也会变得更糟糕。但政治的目的难道不是增加社会的幸福感吗？”（摘自声明）。

伙伴（Ally）是什么意思？

“伙伴（Ally）”是指无论其是否属于LGBTQ+群体，都尊重性少数群体（LGBTQ+社群）的权利和生活方式，并努力理解和支持ta们，同时支持旨在纠正不公正的活动和行动。

T-ACT筑波行动项目开展了一个名为“LGBTQ+ = ALLIES Salon”的项目，在这个项目中，LGBTQ+个体和非LGBTQ+盟友汇聚在一起，共同分享关注点、学习、策划和执行展示公民责任的行动。其目标是创建一个空间，让LGBTQ+个体和盟友共同努力解决问题并采取行动。



HANASO!

你是否对性别和性取向有任何问题或疑虑？想了解更多相关知识吗？或者您是否有任何想要向性别支援团队提出的问题？请扫描旁边的QR码，帮助我们收集读者对性别和性取向各个方面以及性别支持团队的问题和疑虑，我们将负责地回答。请随意向我们提出任何您可能不愿意向其他人询问的问题！

*您提交的问题和疑虑将在IMAZINE上公开发表。

*如果问题数量过多，可能会难以全部包含。



好书推荐

性别是彩虹色的吗？（繁体中文）

艾莉·马岱而

标题一目了然，这是一本关于LGBTQ+的书，以简单易懂的方式呈现。即使是一个完全不熟悉LGBTQ+话题的13岁的人也能理解！它展示了大约40个LGBTQ+个体的真实声音，ta们在社会中不断面对“我是谁？”的问题，并描述了各种经历。它告诉我们，人类是多样的，标签只是理解自己和他人并表达自己的手段。不符合标签也没关系，做自己就好。



活动情报

BHE性别支援团队参与策划和组织季节性活动，例如3月的国际妇女节、4月的东京彩虹骄傲节和6月的骄傲月，以及组织和运营Safer Space KiteKite和电影放映。我们还参加了双峰祭的出展，旨在建立LGBTQ+社区和组织性别和性取向相关的活动。我们已经整理了未来的活动日程表，欢迎有兴趣的人加入我们！

6/3（周一）~6/21（周五）

筑波骄傲月 ~Petit 图书馆~

地点：中央图书馆

6/5（周三）、6/26（周三）

Safer Space Kitekite

地点：人间系A栋110

时间：11:30~13:30

Official IP



BHE

ヒューマンエンプロイメント
Bureau of Human Employment



IMAZINE No.1

出版：人類賦權推進局（BHE）性別支援團隊

IMAZINE是什麼？

不知道大家有沒有聽說過筑波大學的人類賦權推進局，性別支援團隊？近些年來，我們經常聽到關於性傾向與性別表達（SOGI, sexual orientation and gender identities）的話題和討論。相關議題的認知度也越來越高。性與性別是我們每一個人都與之息息相關的重要話題，我們每個人都在經歷著性與性別，也一定有人因為性與性別而煩惱，甚至掙扎。

BHE是Bureau of Human Empowerment的縮寫，其中性別支援團隊的目標是給予那些校園中被性傾向與性別表達問題困擾的同學，老師們。除此之外，性別支援團隊也立志於傳播相關知識，深化對相關議題的理解。性別支援團隊的工作重心包括女性與性別少數學生的安全控制元件“Kitekite”的日常運營。在這個安全空間中，大家可以安全地探討性與性別相關議題，分享經驗。同時，性別支援團隊也積極在筑波大學以及校外舉辦活動，如六月份的圖書館展覽和東京驕傲節的參展。

IMAZINE就是由性別支援團隊出版的通訊雜誌。我們建立IMAZINE是為了能夠為筑波大學的學生提供更多發聲渠道，向校內外傳播更多與性與性別相關的知識和情報，同時也積極公佈性別支援團隊的活動日曆，希望更多的人能夠來支援參加我們的活動。

我們的名字“IMAZINE”是受到了筑波大學的口號“Imagine the Future（想像未來）”的啟發。透過這份雜誌，性別支援團隊希望能夠為每一位大學成員賦權，讓我們都可以驕傲的，毫不愧疚地做我們自己。希望我們能夠給大家力量。

在BHE性別支援團隊的一年-保井啟志教授

我們採訪了保井啟志教授。保井老師於2023年2月至2024年3月期間在BHE擔任助理教授。現任同志社大學研究員。我們請保井老師為我們分享了他在BHE的工作感受。保井老師的專業領域是女性主義和酷兒理論，以及以色列/巴勒斯坦語境下的批判性動物研究。他於2023年3月提交了自己的博士論文。論文題目是《圍繞現代以色列權利的政治和國族主義：性少數權利和動物權利》。保井老師除了在性別支援團隊中的日常工作，也非常主動積極地參與了與學生職員的策劃會議以及日常管理工作。保井老師非常的親善友好，我們的採訪非常順利，愉快。接下來，我們一起來看看保井老師是如何在加入BHE之後推進安全空間Kitekite的實現的吧！

保井老師和BHE的相遇是一個偶然。在博士課程接近尾聲，尋找自己將來職崗方向的時候，他驚喜地發現筑波大學竟然設定了專門支援和推進性與性別多樣性的部門，並且在招聘聘研究專業的教職員。他表示非常開心能被BHE錄取。他也強調了性教育在日本的重要程度，指出日本的小學，初中和高中都鮮有專業的性教育專案。也因此，保井老師在他的研究和教育工作中同時推進著性與性別議題。

保井老師正式在BHE任職之後的第一專案標就是建立一個安全空間。在保井老師的推動下，筑波大學的安全空間“Kitekite”在去年正式成立。基於他自身在大學期間參與運營性少數社團的經驗，他認為這樣的安全空間在大學裡面是必需的。他也表達了對因為自己的性傾向與性別表達不被尊重而無法來大學校園上課或參與活動的學生們的擔憂。“大學必須要負責任地為所有學生提供一個可以安全，舒適地學習和討論的環境。”在他的大學時代，他在女性主義與酷兒理論研究者清水晶子老師的一篇名為《大學要如何保護好“大學”？（的形態）？：大學中的性少數們》（2016年出版於《世界》第888卷，巖波書店）的文章中得到了啟發。他認為“這是一個所有大學都必須直接面對的問題。”很多美國的大學以及一部分日本的大學，尤其是東京的大學都已經建立了他們自己的安全空間。正是在這樣的境況下，在與學生職員，以及其他部門的教職員的多次討論後，筑波大學的安全空間終於得以實現。

保井老師提到：“性少數者經常會感覺到一種孤立感。當ta們生下來就與別人“不同”，即便在自己的家裡，ta們也大多有一對異性戀和順性別的雙親，在這樣的環境裡，他們自然會感到被孤立。到了青春期的時候，ta們開始了偉大的探索自我的旅程。這個旅程也和別的少數群體不同。因此，我們需要的不僅僅是幫助和被幫助，更應該是平等和公正的關係。”他希望能將這樣的資訊傳達給學生們。雖然他今年已經離開了BHE，但是他也號召更多的學生繼續參與進安全空間的運營。希望這則訪談可以激勵接下來的學生和學生職員們更加積極地參與到Kitekite的運營中來。

保井老師，謝謝您！



保井啟志 (2023/03/27)

2024東京驕傲節中的同性婚倡導行動

旨在實現婚姻平等（同性婚合法化）的公益社團“Marriage For ALL Japan”，以“婚姻自由為所有人”為宗旨，在2024東京彩虹驕傲節進行了多樣的宣導活動。其中包括關於同性婚期的座談會、遊行，也設定了增強現實相機體驗空間來視覺化支援同性婚期的候選人。並設定了一個角落向國會議員傳遞呼籲同性婚合法化的資訊。活動總共收集了大約330封信件。遊行中，除了來自全國各地的支持者和利益相關者外，還有提倡“Marriage For ALL”的訴訟當事人和法律團隊參加。關西訴訟的原告川田有希和田中昭全表示：“奇怪的是，國家領導人的宣告是，承認同性婚姻會使社會也會變得更糟糕。但政治的目的難道不是增加社會的幸福感嗎？”（摘自宣告）。

Ally是什麼意思？

“Ally”是指無論其是否屬於LGBTQ+群體，都尊重性少數群體（LGBTQ+社群）的權利和生活方式，並努力理解和支援ta們，同時支援旨在糾正不正的活動和行動。

T-ACT筑波行動專案開展了一個名為“LGBTQ+ = ALLIES Salon”的專案，在這個專案中，LGBTQ+個體和非LGBTQ+盟友匯聚在一起，共同分享關注點、學習、策劃和執行展示公民責任的行動。其目標是建立一個空間，讓LGBTQ+個體和盟友共同努力解決問題並採取行動。



HANASO!

你是否對性別和性取向有任何問題或疑慮？想要了解更多相關知識嗎？或者您是否有任何想要向性別支援團隊提出的問題？請掃描旁邊的QR碼，幫助我們收集讀者對性別和性取向各個方面以及性別支援團隊的問題和疑慮，我們將負責地回答。請隨意向我們提出任何您可能不願意向其他人詢問的問題！

*您提交的問題和疑慮將在IMAGINE上公開發表。

*如果問題數量過多，可能會難以全部包含。



好書推薦

性別是彩虹色的嗎？ (艾莉·馬岱而)

標題一目了然，這是一本關於LGBTQ+的書，以簡單易懂的方式呈現。即使是一個完全不熟悉LGBTQ+話題的13歲的人也能理解！它展示了大約40個LGBTQ+個體的真實聲音，ta們在社會中不斷面對“我是誰？”的問題，並描述了各種經歷。它告訴我們，人類是多樣的，標籤只是理解自己和他人並表達自己的手段。不符合標籤也沒關係，做自己就好。



活動情報

BHE性別支援團隊參與策劃和組織季節性活動，例如3月的國際婦女節、4月的東京彩虹驕傲節和6月的驕傲月，以及組織和運營Safer Space KiteKite和電影放映。我們還參加了雙峰祭的出展，旨在建立LGBTQ+社群和組織性別和性取向相關的活動。我們已經整理了未來的活動日程表，歡迎有興趣的人加入我們！

6/3 (週一) ~ 6/21 (週五) 筑波驕傲月

~Petit 圖書展~

地點：中央圖書館

6/5 (週三)、6/26 (週三) Safer Space KiteKite

地點：人間系A棟110

時間：11:30~13:30

Official IP



BHE

ヒューマンリソース・マネジメント
Bureau of Human Employment